

maonline.jp

有識者に聞く「米国に証券取引所が多い」理由 | LINE法務室長・山本雅道氏



シリコンバレーの中心に位置しているスタンフォード大学

ー米国の証券市場は日本と大きく異なるのですか。

証券取引所でアメリカと日本との一番の違いは、日本は上場している取引所でないと取引ができません。例えばLINEは東証一部に上場していますので、取引できる取引所は東証に限定されます。

アメリカではどこに上場するのかと、どこで取引されるのかは、必ずしも一致しません。ニューヨーク証券取引所に上場している株であっても、ほかの証券取引所で取引ができることが通常です。

さらに証券会社としては、お客さんから注文を受けたら一番いい価格（買い手であれば一番安い価格、売り手であれば一番高い価格）を提示している証券取引所に注文を回さなくてはなりません。証券取引所がたくさんあるとはいっても、一つのアメリカの市場として機能しているのです。

ー登録認可を得ているロングターム証券取引所とはどのような取引所なのですか。

特徴は名前の通り、長期株式取引所です。通常の上場では、投資家から短期的に利益を上げる

プレッシャーがあると考えられます。例えば特許を持っている場合、保有していれば特許を使えるのに、短期的に利益を上げるために特許を売らなければならないというようなケースもありえます。

これについては長期的な成長を目指せなくなっているという批判があり、こうした中でシリコンバレーの実務家が短期的な思考を持った株主ではなく、長期的に企業を見る人のための証券取引所を作ろうとしているのがロングターム証券取引所です。

この目的を達成するために、ロングターム証券取引所では上場規則として、長期的な経営方針を持つことや、報酬についても四半期ごとの成績でなく何年間もの成績によって成果報酬を出すような仕組みを作ることと求め、投資家にも開示しないと上場できないようにするようです。また決議権も1株1決議権でなく、長期に株を保有すると議決権が増え、株主にとっても長く持つことによってメリットが出てくるようにするようです。

— 日本企業に向いているようですが、上場はできるのですか。

日本企業が上場できるのかはまだ分かりませんが、長期的思考を持っている日本企業には向いているように思います。